

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新会社の独自の理念に加え、住み慣れた地域での生活を継続しながら、地域の特色を活かした支援が出来るような理念を常日頃から意識するようにしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で会社の理念を唱和し、研修などでその内容の説明を行っているが、具体化し、ケアにどのように活かしていくことまではまだ至っていない。		会社独自のものだけではなく、これから地域の特徴を活かした内容を見直しながら、浸透できるようにしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地区の公民館を通して、事業所の存在については、折に触れ説明にて意識していただいているが、具体的活動を通しては実行できていない。ご家族には毎月お便りを通して、伝えるように努めている。		地域に何らかの形で(イベントや情報誌)伝えることを考えて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に近隣の住民を挨拶や話をする事は多い。小さな子供がホームの前を通る時、玄関で夕涼みをしている入居者様を遊ぶこともある。又、畑の作物のおすそ分けをいただくこともある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや高齢者食事会にはお誘いいただいているため、できるだけ、多くの方が参加している。子ども会廃品回収、草取りなど、協力している。		地元の小中学校との交流まで出来ていない為、今後試みたい。今年の敬老会は近所の子供会の協力を予定している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の連絡協議会など2団体に入会し、定期的な情報交換・勉強会などで事業所だけでは知りえないことを得るようにしている。現在のところ管理者だけの参加としているが、今後はスタッフなどの交流も考えたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員に報告し、ケアの質の向上につなげるようしているが、スタッフの入れ替わりが4月以降多くあり、新たに浸透できるような時間を設けたいと思っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、質の向上に向けた課題に対して多くのご意見を頂いたりしている。又現在取り組んでいることに関して、定期的に報告を行って、ご意見をいただいている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点が出たときなど、迅速に相談に赴き、把握してもらうようしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実践者研修などを通して勉強する機会を持つ以外なかなか無いため、限られた職員しか対応が難しいため、スタッフルームなどに資料を置き学習するよう進めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、ホーム会議の勉強会で3回のうち1回は行っている。事例を通して色々なケースがあることを各職員に知ってもらい、職員間で意見交換で気易いよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎回契約時には、読み合わせを行い、ご理解を得て署名捺印をお願いしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時には、なるべく管理者などが、直接お会いし、近況をお話しながら、ご意見があればうかがうようにしている。以前、職員が直接聞き、全員に伝わっていないとときが、あったためお客様連絡票を別個に作り、職員間での浸透とサービスの質の向上に努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時はスタッフが近況を報告するようにしている。日頃の暮らしぶりについては、月1回のお便りを通して、個別とホーム共有の2種類の内容のお便りで対応、写真などご希望のご家族には一緒に送っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、遠慮なくご意見が言えるように努めると共に、苦情受付も、事業所だけでなくフリーコールがご利用できることを入居契約時にお知らせしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、カンファなどで職員の意見を聞く時間を設けている。日頃も個々にコミュニケーションを持ち、言える雰囲気を作るように努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活が充実できるよう、勤務時間、スタッフの休憩などに配慮している。又季節は行事ごとに応じ、時間帯の変更をスタッフと話し合いながらしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとに馴染みの関係ができるよう職員は固定し、新しい職員が配置される時は、慣れるまで周りのスタッフのフォローをするようにしている。個々の利用者の情報交換をこまめに行うようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、人物本位を基本とし、仕事に対する姿勢を重視するようにしている。又、働いている職員に関しても積極的に外部の研修に参加できるよう情報を流したり、本人の希望を聞いたりしている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳を守ることを基本とし、人権とは何かを意識できるよう公共の人権週間のパンフレットなどを回覧し勉強してもらっているが、カンファなどを通して話し合う機会も持ちたい。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人については導入研修を行っている。会社独自のステップアップ研修も計画されている。他の団体の主催する研修情報も流しているので希望により受けよう薦めたい。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に参加させていただき、事例検討会、情報交換会などで交流を深め徐々にネットワーク作りが広がってきている。今後さらにサービスの質の向上に活かしたい。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一日に必ず休憩室で休憩を取るよう指示しているが、職員のストレス解消のよい方法などを他の事業所などから聞いたりして実践している。個人との		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得についてはそれぞれが目標を持って取り組むよう指導している。又社内でもキャリアアップ制度があるため、非常勤でも一定の累積勤務時間を超えると受験できるため推薦している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人のおかれている状況を理解することにより、話をよく聞き、本人の思いを受け止めるよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解できるまで、じっくり話し合いの場を持つことを基本としている。又どこまでの対応が可能なのかをお話している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることはなるべく早急に行に移しているが、いろいろな選択肢がある場合はご本人にとってもっともより良い方法になるよう、関係機関などに相談したりして実行している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人も含めご家族の見学後もスタッフがご自宅に伺ってお話を聞いたりして徐々に馴染みの関係を作って入所していただくようにしている。		
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と共に生活しているという意識を持ち、利用者のできる部分を活かせるように努めている。又その人に寄り添うことを大切にご本人の思いを共感できるようにしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを深く理解することから始まり、ご本人を共に支えて行く関係を作るようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と利用者の状況を見極め、必要に応じた支援をするようにしている。両者のお互いの気持ちをよくくみ取り、よりよい関係が続くような支援をしたい。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に住まわれているなじみの知人の訪問やボランティアなどを受け入れ、交流を保てるように努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフ間で、利用者間の関係調節に必要な情報交換は細かく行い、連携しながら関係が円滑に保てるようにしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方のほとんどは入院の方が多く、なじみのスタッフが時間を見てお見舞いに伺って、関係は断ち切らないようにしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人の行動や言葉使いから意向をくみ取るよう心掛けています。カンファで情報交換し、ご家族からも情報を伺うようにしている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の全体像を知るうえで、ちいさな事柄でも、ご家族、友人などを通して、把握するようにしている。入所前にご家庭を訪問して事前情報を得てケアプランに活かせるよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを理解しながら、できること、出来ないことに注目し現有能力の維持を目指している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人はもとよりご家族にも、それぞれの思いを伺い、担当者会議でそのご意見をくみ取った計画を作成するよう心掛けている。作成したプランについても説明し意見を聞くようにしている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況を評価しながら、状態に応じ変更が必要と思われる場合は、関係者と協議し、ご本人・ご家族の要望も踏まえ変更、見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録にその人らしさを重視した記入を心がけ、細かなことでも計画の見直しに反映できるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の状況に応じ、緊急の時など、通院援助や、それ以外でも外出の援助に対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の民生委員さんからは福祉関係で利用できる資源について、色々情報をいただいている。又徐々にボランティアの輪が広がりつつあり、多方面のボランティアに来訪いただいている。中には利用者のお知り合いもおられる。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容や訪問歯科、訪問マッサージなど利用者やご家族に提案し、利用に結びついている。今後も他のサービスを利用できるよう、情報を持っていたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ必要と思われる利用者がいない為、話題には出てこないが、もし必要と思われる方がいたら包括センターと協力して、支援したい。		外部団体の研修の情報などを職員間に流したいと思う
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望される医院をかかりつけ医とし、提携医のほか入所前からの医院であったりと様々であるが、日常の健康管理や状態変化に柔軟に対応できるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所の協力医療医の中に精神神経科の専門医がいられるため、困難事例はご家族を通して相談している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の担当看護師や訪問看護師などに状態の変化があれば相談できるようになっている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はなるべく職員がお見舞いし、ご本人の状況を把握しながら、医院と家族との意見調節してもらい、早期退院に結びつくよう努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に何名かの利用者の終末期を見させていただく機会を持つことができたので、意識の上での大切なもの、重要なものは理解できたと思う。ご家族の気持ちと職員全員の理解がもっとも必要で、医師との協議は繰り返し必要と感じた。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が安心して、又納得した上で最期を迎えられるように支援したい。急変時の医師との連携も重要と思っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までに移り住むといっても病院がほとんどであるが、退去された後も馴染みの職員が訪問し、交流を続けている。又関係者への情報交換もこまめに行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から尊厳とプライバシー確保について職員間で話し合う機会を持つようにしている。意見交換が出来る雰囲気を作りたい。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で意思表示しやすい雰囲気や利用者の状況に合わせた声かけの工夫によって、ご本人の気持ちを第一に考えるよう努めている。又納得した生活が送れるよう支援するようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れをベースに、ご本人の気持ちを尊重しながら個別に対応できるように支援している。その日を楽しく過ごせるように、それぞれに新しい計画をたてたりしながら過ごしていただいている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えなどはご本人で選んでいただき、女性のお化粧の道具もそろえて、おしゃれの日など企画し、楽しんでいただけるようにしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も好きなものを一緒に考えながら調理、配膳にも出来るだけ参加するよう心掛けている。男性利用者の方は近所のレストランでおやつを食べたり、コーヒーを飲みに行ったりする機会をもうけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこ、酒はご本人の希望があれば、職員管理の下、他の入居者の迷惑にならないように場所、時間を考えながら出来るようにしている。希望で言えるようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを把握するようにし、誘導などもさりげない方法で行い本人の気持ちを配慮しながら、できるだけ自立で出来るように取り計らっている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にあわせたローテーションを大切にしているが、入浴したいという気持ちがおきるように声かけの工夫をしながら行っている。毎日入浴を希望している方には希望に沿えるようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を考えながら、夜スムーズに睡眠に入れるよう、生活の流れを工夫している。個々のリズムが違い就寝が遅い方には、リビングで過ごせるよう、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人に合った楽しみごとや役割を見つけ出し、少しでも張り合いのある日が過ごせるよう、努めている。		もっと個人の生活歴などを掘り下げて、できることの幅を広げて、計画し実現に向けた。人的要素が必要なものは計画的にしたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお小遣いは管理しているが、買い物をするときは、お金を直接本人が支払うように配慮している。一部の方はご家族と話し合い、小額であるが現金を持っている方もおられる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩だけに限らず、定期的に季節の移り変わりを感じられるように、外出を企画している。それぞれの好みに合った場所の選定も考えながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	静かなところが好きな方には、図書館や博物館、自然の好きな方には、公園など出かける場所を選定しながら、支援している。		泊まりがけで、でかける機会がなかったため、これからはそのようなことも、計画したい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話も利用できるようになっている。年賀状など書いていただくようしているが、字が書けない方が多く出すまではいっていない。		絵手紙などを各機会をもうけたい。なるべく多くの方が出来るようにしたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などの制限はしていない為、いつでも誰でも来訪できるようにしている。又面会は個人のお部屋で過ごしやすいよう配慮し、気兼ねなくリビングでも過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士、身体拘束についての知識を深め、無意識のうちに行われていないかを検証するようしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・リビングには鍵をかけないようにしているが、外出しそうな時は、声かけし一緒について行くなど、安全面に気をつけながら、自由な動きが出来るよう支援している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員が行動を共にしながら、全員の見守りをしている。夜間も2時間おきの巡視で安全面の配慮しながら、居室内で休まれている時も、小さな物音でもすぐ対応できるように、職員の配置をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	品物によって厳重保管や保管管理のものがあるので、個別に保管方法を決めて管理している。ある程度必要性のあるものは、使えるよう職員が管理するようになっている。その時々に応じて、方法も変えているが常に安全配慮を考えるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人個人の状態から予測されるリスクについて、検討し未然に防げるように対策を考えるようにしている。火災については年2回の訓練だけではなく、防災の知識を常に持つようしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人研修の時に救急に関する知識は勉強しているが、スタッフの大半が新人なので、ミーティングなどで話している。		近々に救急救命講習会を計画したい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署に届けて防火訓練を実施している。避難経路の確認、消火器の使い方の講習もしているが、全員に行き渡るようにしたい。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の抑制の無い生活とリスクの関係についてはご家族に機会があればお話し、理解していただくようにしている。ご本人にとっての必要性を理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや、入浴、排泄時に異変があれば、どんな小さなことも見逃さず、早期発見・予防を心掛けている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一部の職員であるが薬の目的を把握しているが、服薬の管理は全員でミスのないよう努めている。又症状により、主治医と連携をとり、薬の変更の指示を受けている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな方が多いため、食生活で便秘予防のものを提供するようにしている。又運動不足にならないよう午前中に室内運動の時間をもっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後実施している。利用者も習慣化しているので自らすすんでしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は毎日介護記録に記録し、一日の合計量が少ない方は工夫して提供している。それでも一定以上摂られないときは主治医に相談し脱水予防するように注意している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し全職員閲覧するようにしている。又感染症対策委員会を設け、定期的に勉強会を実施している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材、調理用具についてはキッチン点検表を記入して、毎日安全の配慮に意識付けできるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にプランターやベンチを置いて夕涼みできるように配慮し、玄関には季節のものを置くなど、楽しめるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって居心地がよいように、環境の整備には常に心がけているが、生活を楽しめるよう、工夫するようにしている。又、臭いや音など五感に訴えることが出来るようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの各所にくつろげる場所を作って、思い思いに過ごせるよう工夫している。(椅子を配置したり、花を飾るなど)		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく個人にとって馴染みのものを持ってきてもらい、忘れそうな時は声をかけて楽しんでもらうような工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	台所の裏口は、常に半分網戸にして空気の換気に気をつけている。各トイレは常時換気扇が作動している。トイレ臭には充分気をつけるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間内で小さなものでも、障害物など危険物がないか、安全確保と自立への支援を両方向で考えるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱をまねくような環境の要因に早く気づき、スムーズに生活動作が出来るように工夫するよう、職員同士話し合いながら改善している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇の花を楽しんでいただけるよう、季節事に利用者に植え替えていただいている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない